

下田まち遺産を皆さんと共に未来へ

「下田まち遺産」とは下田の人たちが昔から大切にしてきたもの、これから新たに大切にしていきたいもののことです。

美しい砂浜や歴史的な景観、伝統や人の営みによって育まれる地域文化などは、まさに「下田まち遺産」です。これは時代が変わっても人の心に残り続ける下田の誇りとなります。下田を象徴する歴史や文化などは、私たちや次の世代の財産でもあります。私たちはこの歴史や文化を様々な分野の人たちと協力し、保全・活用しながら次の世代に引き継いで行かなければなりません。これらを未来に活かすためにも、私たちの力を合わせる必要があります。どうか、皆さまのご理解、ご協力をお願いします。

「下田まち遺産」は市内外の方々から提案された事例を市民の代表者が集まる「景観まちづくり市民会議」で審議し、意見を集約した上で、下田まち遺産ギャラリー等を開催、最終的にはアンケートによる「市民の声」をもとに、下田市が決定しています。(前回おこなった下田まち遺産ギャラリーでのアンケート回収数 254 件)

現在、認定された「下田まち遺産」は 130 事例。今後も認定された数だけ増えていきます。認定された中でも、「下田登録まち遺産」は維持・保全のために助成制度もご用意しております。

今号の表紙写真

ほうほんじさんずいごんげんさいれいはたまわし

報本寺山随権現祭礼幡廻し



山随権現は、土肥の豪族・富永政重と言われています(諸説あります)。戦国時代から江戸時代にかけて加増野には浪人が流れ込み略奪などが横行したため、富永政重は加増野の村人を 8 組に編成した上で、それぞれに勇猛果敢な家臣をつけ、浪人を撃退したと言われています。この富永政重の遺徳を偲ぶ行事として元禄 2 年(1689)頃から幡廻しが始まり、その後、厄除けや五穀豊穡の祈願などの意味を加えながら、現在の形が完成したといわれています。

毎年 8 月 11 日に行われる、幡廻しは立派な真竹を、禰宜(注 1)の合図のもと、虎と呼ばれる 8 人組の若衆と後引きといわれる 15~6 人の若衆が境内を引き回し、竹を倒すことなく廻しければその年は豊作で厄病は退散すると伝えられています。

注 1 禰宜(ねぎ)・・・神職の職称(職名)の一つ。今日では、一般神社では宮司の下位、権禰宜の上位に置かれ、宮司を補佐する者の職称となっている。

下田まち遺産に思う

元気をくれる幡廻し

毎年、真夏の 8 月 11 日を楽しみにしている。報本寺の幡廻しである。1600 年代後半から始まったと云われているが、約 400 年も伝承され続けられた厳かな神事や所作もさることながら、なによりも幡廻しは私に 1 年間の元気をくれるのである。加増野地区の若衆が中心であるが、元気なシルバー世代も加わり、一致協力して 10 メートルを超える太くて重い真竹を境内狭しと廻す。その力強さと廻す人々が放出するエネルギーが私に元気をくれるのである。また、報本寺が紐帯となった加増野地区の絆の強さと人々の心優しさは当地に移住してきた私に、ここに住んで良かったとつくづく思わせるのである。

文 寺田繁雄(下田市景観まちづくり市民会議委員)



下田まち遺産ニュース その 1

下田登録
まち遺産

旧澤村邸が生まれ変わりました。

2012 年 3 月まで改修中だった旧澤村邸が先頃、観光交流拠点として一般開放されました。この建物は旧下田ドッグ創業者で、戦前に旧下田町長も務めた澤村久右衛門氏が大正 4 年(1915)に建築、平成 20 年に澤村紀一郎氏から下田市に寄贈されたもの。伊豆石の塀や、白と黒のコントラストが美しいなまこ壁が下田らしい建物は下田まち遺産にも登録されています。

※こちらについては本誌 4 ページでも紹介



←建物入口に付けられた下田登録まち遺産プレート

旧澤村邸 イベント紹介

写真の祖 下岡蓮杖展

下田生まれの偉人・下岡蓮杖。横浜で日本人初の写真館を開いたことでも知られ、狩野派の絵師としても名を残しています。会場では蓮杖が写したさまざまな写真を展示します。

期 間 2012 年 7 月 28 日(土)~9 月 2 日(日)

問合せ 下岡蓮杖を顕彰する会 tel.0558-22-1181(下田商工会議所内)



耐震補強の整備はしたものの、建物内部はほぼ建築当時(大正 4 年)のままなので、その頃の住宅様式がわかる。



無料の休憩室からはベランダが眺められる。お茶などのサービスもあり、ゆっくりとくつろげるスペース。



奥の蔵内部にある皮革工芸家・大久保婦久子氏の作品ギャラリーは、既存の伊豆石の壁を利用して風合いが面白い。



2 階は下田芸者の稽古場として使われているので、敷地内で三味線の音色が聞こえることも。(2 階は一般者立入不可)

下田まち遺産ニュース その 2

「広報しもだ」に下田まち遺産が連載されています。



コチラです!!



市内で配布されている下田市発行機関紙「広報しもだ」の裏表紙に「下田人の息づかい」と題した下田まち遺産コラムがスタートしました(2012 年 6 月号より)。今後、下田まち遺産の紹介を連載していきますので、どうぞこちらも併せてお読みいただきたいと思います。第 1 回目の下田まち遺産は「稲田寺・津なみ塚」と「今村公勅功碑と武ガ浜波除」です。港町として栄えた下田は、嵐の際に大波の被害を何度も受けていました。そんな住民の苦悩が今回ご紹介している下田まち遺産に現れています。

※「広報しもだ」は回覧板の他、下田市役所市民課前、下田市図書館などで配布しております。